

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4471200040		
法人名	営利法人 有限会社 まごの手サービス		
事業所名	グループホーム まごの手		
所在地	大分県豊後大野市朝地町下野442番地2		
自己評価作成日	令和6年2月19日	評価結果市町村受理日	令和6年4月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	令和6年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1、理念のある支援により、利用者さまの人権と生活を守ります。
- 2、「マズローの欲求」を指標とし、利用者様が自立感・満足感のある生活をおくれるようにします。
- 3、さりげなく丁寧な支援ができるように職員の人間力及び職員連携の向上を目指します。
- 4、利用者様の安全支援として①重複支援を避ける②ひとつの支援に最後まで責任をもつ③職員間同士でコーチングすることを柱に取り組んでいます。
- 5、地域貢献できる事業所を目指しています。
- 6、施設内勉強会を充実し、考える力と実践できる能力を向上します。
- 7、災害対策(自然災害・感染症)に努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 1)職員の関係が良好で、情報の共有がとれており、かゆいところに手の届く支援の実践に全員で取り組んでいる。
- 2)入所から看取りまで、協力医および訪問看護との連携がとれており、医療面でも安心して過ごすことができる。
- 3)感染症対策および各種のマニュアルがきちんと整理されており、職員の質の向上につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念とする「かゆいところ」はマズローの5大欲求を指標とし職員間で共有を深めている。利用者様の欲求を満たす「いきどいた支援」ができるようチームで取り組んでいる。	理念は玄関に掲示しており全職員で理念を共有し、マズローの五大欲求を基本に、かゆいところに手の届く介護の実現に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ5類移行後も、ご近所の方とは挨拶程度で、交流を生かした地域生活には至らなかった。そんな状況であったが、季節ごとに野菜や花の差し入れを地域の方より頂いた。	地域との交流はまだコロナ禍以前のようにはできていないが、芋や野菜、花など届けてくれる地域の方が面会に来てくれたり、併設のデイサービスとの交流など、少しずつ外部との交流が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小中学校運動会への記念品進呈、小学校や老人会婦人部等からの差し入れ等、直接の交流もコロナ後、少しずつ戻ってきている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5類移行後は会議を通常開催、現状報告や意見交換を運営の一助としている。コロナを体験したことで家族・外部者からの本心や要望等を会議の際に聞くことが増えた。	現在は通常の開催ができており、現状報告や意見交換を行っている。コロナ禍の時期より家族の方からの意見が出るようになった。また、地域の情報も入りやすくなり、出された意見をサービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での相談報告、随時事故報告等行っている。互いに協力関係が必要なことを担当者で共有している。	運営推進会議での報告及び相談、また4月からの介護保険制度改定についての説明など、担当者とはお互いに協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針を整備し介護者本位の不適切な支援にならないことを念頭に拘束防止に努めている。スタッフによる定期的な身体拘束廃止会議等で現状確認をしている。	身体拘束をしないケアについて、2か月に1回職員個々が振り返りを行い、報告書を作成している。現在はセンサーマットは拘束ではなく先の行動を読み素早く対応するためと考え、使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針を整備し不適切な言動や支援により、利用者様が苦しんでいることがないか常にチーム内で確認し、虐待防止に努めている。また現状へのスタッフの声を聞き、気持ちの表出を図っている。		

事業者名:グループホーム まごの手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の意向を重要視、自立感のある生活を守ることや物品管理等、権利擁護を念頭に支援している。また成年後見制度を利用される方がいるので、制度を都度々学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	双方に不利益が生じないように重要事項を説明する。特に利用料、契約解除、事故リスク等は十分な説明を実施し、相談も随時受けつけて対応している。負担金改定時は文書をもってお知らせしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等で聞かれる「職員が気づかないこと、ご家族ご利用者様の思いの言葉」を、運営に反映させた。特にコロナ5類移行に伴う家族と施設側の意識のずれがないよう会話に努めた。	毎月、家族には請求書と一緒に手紙を出している。また、運営推進会議や面会時は要望、意見を聴き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営はスタッフの主体性を重視し、個々の考えがチームとして成立つように話し合い、柔軟に運営している。理念を基に責任や発想力のある運営であるかを常々考えている。	職員の主体性を重視しながら、持っている力を引き出す工夫をしており、現場の運営はほぼ職員で行っている。職員は皆、元気で明るい。直接管理者に言うことが多く、意見や要望は出しやすい雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	コロナ5類移行後も感染対策に配慮した勤務体制にしている。勤務希望は可能な限り対応し有休取得率も高めている。人事考課は定着しているが、更なる向上を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の職員育成は職員間の指示系統、意見交換を重視している。また職責学習を目的に月リーダー制を実施している。その中で判断力・折衝力・計画力等を高め人事考課で振り返りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者と、地域の実情や運営状況等の相談を行いサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に伴う気持ちを傾聴することから始めている。「安心できる支援者」と認識されるような関係作りを支援を介して実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期の家族の不安や要望は特別感があり、電話報告や面会時に密に答えることで相互理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期は、ご本人・ご家族の不安解消や要望を第一とし、訪問看護等の医療支援も交えながら、安心感のあるサービス導入に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様とは互助関係であることを伝えながら生活することでおだやかな時間がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により面会の尊さ等について再考したことで、本人を支える面会や家族と外出する時間につながった。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍を面会中止することなくできる方法で実施したことから、5類移行後もより近い面会や外出等できる柔軟な対応に感謝のお言葉を関係者より頂いた。	面会もパーティションを用いて継続している。外出の希望にも柔軟に対応し、演歌歌手のコンサートや初詣、中九州ドライブインまで遠出しソフトクリームを食べたことなど、大変喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性等の関係性に配慮しながら、和らぎのある雰囲気作りをしている。利用者間の不満事にはさりげなく対応し、早期解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じてご家族の相談相手になり、電話や訪問を受けることがある。		
人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の要望や自己決定を我慢することがないように声かけし、意向表出困難な方の小さなサイン等得られた情報を共有している。これまで積み上げた支援から最良と考えられる支援をチームで提供している。	日常の中で機会があるごとに聴いたこと、気づいたことを記録に残し、職員全員で共有し、チームで支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からこれまでのエピソード等をお聞きしながら、大切なことから苦手なこと、悩み等を把握し、支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援の中から、ご本人の体調・生活への意向・動作能力等をチームでフォーカスし、線の視点をもって把握できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の課題とその支援については、ご本人・家族の要望、マズローの5大欲求を基に日々フォーカスし、チームで計画立案展開し現状に対応できるものとなっている。	リーダーは状態を確認しながら目標を立て、プランの変更につなげている。毎日のミーティングで個々の課題と支援について話し合い、家族の要望およびマズローの五大欲求を基本に現状に即したチームでの支援を計画している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の要望や問題点はフォーカス方式で計画立案し、統一した支援と記録をしている。そこで得た結果を申し送り等で共有して、支援に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望や身体状態に応じて、自宅帰りや買い物支援等、限られた人員配置の中で臨機応変にサービスを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の乏しい土地柄ではあるが、理美容室やフットケア、コンサートに行く等、個別対応による楽しみや日々の生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常の往診時にはご本人をフォローしながら主治医に報告相談している。経過は随時ご家族に説明している。また必要に応じて家族には受診時に同伴して頂いている。	協力医の月2回の訪問診療がある。かかりつけ医の受診は家族の送迎となっているが、都合の悪い時などは職員付添にて受診し家族に報告している。訪問看護も利用しており、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の要望や体調変化等を看護職に随時相談し、早期改善を目標に健康管理に努めている。訪問看護師との連携も密にし、終末期ケアや疼痛緩和等に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設情報提供書によりご本人が入院生活で困らないようにしている。また心身機能確認を随時実施し退院後の生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の終末期の意向を自己実現とフォローし、早期から家族や主治医と共有している。ご本人の「ここで最期を迎えたい」という気持ちに応えられるよう、家族や医療関係者、スタッフで終末期を支えている。	重度化や終末期について、事業所の方針や本人・家族の意向の確認をしている。状態変化時はその都度話し合いをしている。事業所で看取る場合が多く、家族や医療関係者、スタッフで密に連携し、見取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	状態悪化時確認シートを用い報告から一次対応ができる流れにしている。体調変化の早期発見ができる小さな変化への観察力・判断力は向上している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	被災地の情報を収集し参考にしながらBCP作成と災害想定訓練等実施している。課題もある程度明確となっている。コロナのクラスターを経験したことも貴重な経験となっている。	火災避難訓練は年2回実施している。夜間の通報訓練や、山が近いので土砂災害の避難訓練も年1回実施している。食事や排泄用具などもコロナ禍でクラスターを経験したので、備蓄を見直し充実させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心に添うことでご自身の自信を取り戻して頂いている。接遇では「ですます調」での言葉使いを約束事としている。	定期的に法人内で研修があり、受講後もスタッフ全員で共有し周知徹底している。入室時には必ず声をかけてから入る。トイレ時もプライドを傷つけない声かけ、誘導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が我慢しないようにかかわる時間や言葉かけを工夫し、要望表出と自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の体調や気分等に合わせた個人の生活となっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択等は自己決定できるような声かけをしている。スキンケアや髭剃りの仕上げを手伝ったり、ご本人の好きな色等を把握し、プレゼントの服等を準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症対策として、利用者様と職員の食事時間の別々対応は継続している。スタッフでの手作り食事dayを設け、季節物や利用者の思い出深いものが食べられる楽しみがあるようにしている。	以前は職員も一緒に食べていたが、現在は別室で食べる。主食は事業所内で作り副食は併設施設の厨房より運んでくるが、利用者の希望を聴き事業所内で作ることもある。また、日曜日はおやつ作りが利用者の楽しみとなっている。近隣から野菜などをいただくこともあり、厨房に届け食卓に上がることで話題も広がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隠れ脱水に注意し水分補給をすすめている。嚥下状態に応じた食形態や自力摂取できる環境の工夫等、職員サイドで柔軟に対応している。ミキサー食開始時には栄養補助食品を開始している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔は、感染予防等身体によいことと理解して頂き、毎食後の歯磨き等を習慣化できている。また嗽いや洗浄剤等の使用を徹底し口臭等にも気をつけている。ターミナル期の口腔ケアは訪看スタッフと協同で実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェックシートから把握し、さりげない声かけ支援で自立を促している。尿意便意が弱い利用者様においてもトイレに座って頂き、自立感が継続できるようにしている。	排泄パターンを把握し、さりげない声かけを心がけている。動ける方は紙パンツを利用し、寝たきりの人はおむつを使用しているが、排泄後の保清には特に留意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多様な下剤が増える中、下剤服用時間は個々の反応時間等に配慮している。また自然排便となるように、飲水追加や可能な限りトイレに座って頂いている。その際マッサージ等、時間をかけた支援を実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の高齢化や重度化が進む中、個人の要望、体調にそった入浴支援を実施している。以前より入浴支援の比重が高い中、お風呂が楽しみとなるよう関わっている。	週2回の入浴を基本とし、利用者個々の体調や希望に添った支援をしている。嫌がる利用者は日を変えたり、無理強いせず時間をかけて声掛けするなど工夫し、お風呂が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の休息は、体調や意向から好きな時に好きな場所で休めるようにしている。本人の好む物や室温照明等に配慮し、睡眠が得られるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご本人の要望を聞くことを重視し、適切な薬物療法となるように又できるだけ減薬する方向で主治医と相談し個別に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	オブジェ作り、裁縫仕事、日記、訓練等それぞれが望む楽しめる時間を個別に提供し、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ後も以前のように日常的な外出支援ができなかったが、家族との自宅帰り、希望者の美容室送迎、買い物支援等の支援に努めた。	家族の同伴で、法事や買物、美容院や食事などに出かけている。事業所の前が広い駐車場になっており、散歩や車いすで野菜や花を眺めたり、収穫を楽しんでいる。日常的に外気に触れる支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額所持は家族同意のうえフリーにし、お金を所持する安心感等の価値観を大切にしている。また買いたい物がある時は個人にあった方法での購入、通販の支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、原則「すぐに支援」としている。日頃の会話には逢いたい人との話し等を盛り込み、孤独感の少ない支援に努めている。またスマホを使用する方の手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから見える内外は、季節を感じる草花やオブジェを皆で作成しアメニティを高めている。また共有のトイレや浴室等は清潔感を第一としてしている。歯磨きセット等はいつも同じ場所に置き混乱しないように配慮している。	ホールには職員が持ってくる季節の花が飾られている。利用者と一緒に作成したオブジェにも季節感がある。リビングのソファでは利用者同士がゆっくりと過ごすことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングでは、各利用者様が自席でリラックスした姿が毎日見られる。テーブル席は利用者間の相性やエアコンの風を考慮して配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は癒しの場となるようにご本人やご家族の要望を聞きながら、使い慣れた物や写真等で整えている。またご本人の体調や要望に合わせベッドでの臥床ポジション、照明や室温等を調整している。	個々の居室は、家で使用していた馴染みのある家具などが持ち込まれており、壁面には家族の写真や本人の作品などが飾られており、居心地の良さに配慮した整えとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様からの視野、行動パターン等から、安全で生活しやすい環境づくりを日々取り組んでいる。		